

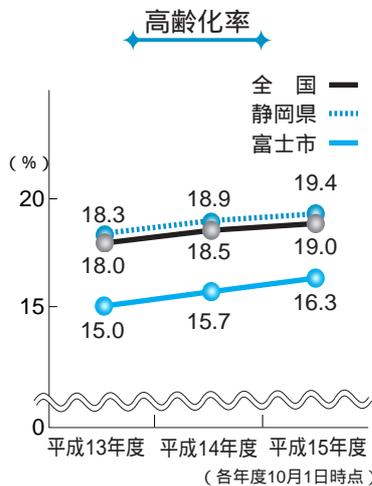
特集

介護の現場から

九月の第三月曜日は、敬老の日。皆さんもご存じのように、総人口に占める高齢者の割合は年々ふえ続けています。今回の特集のテーマは「介護」。介護の現状と現場の声をお伝えします。

市民の六人に一人が六十五歳以上

ことし八月一日現在、富士市の人口は約二十四万三千人。このうち六十五歳以上の人口は約四万六百人で、その割合（高齢化率）は十六・七％。市民の約六人に一人が高齢者です。左図から、富士市がほかの市町村に比べて、高齢化率が低いことがわかります。しかし、これからますます進んでいく高齢社会に向けて、高齢者を支える体制が求められています。



高齢者のいる世帯の増加

高齢者のいる世帯は年々増加し、平成十二年の国勢調査では、総世帯の約三割強に上っています。その内訳を見ると、「高齢者同居世帯」が減少する一方、「高齢者夫婦世帯」や「高齢者ひとり暮らし世帯」がふえています。

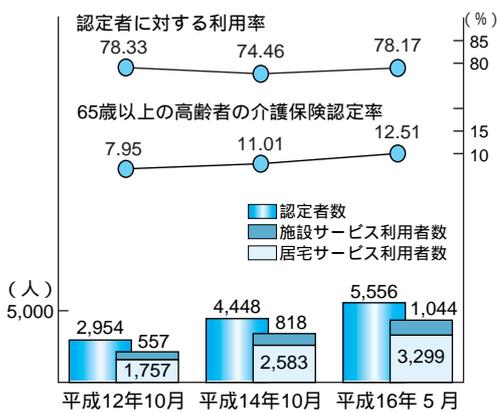
人ごとではない介護問題

今後も、高齢化率の増加が予測されます。このような中で、介護や支援を必要とする高齢者はふえていくことでしょう。今、介護される、または介護する立場になく、自分にはまだ関係ないと思っている人も、決して人ごとではありません。

富士市の介護

社会環境が変化の中で、介護は社会全体の課題になってきています。さて、富士市の現状はどのようなのでしょうか。

介護保険認定者数とサービス利用数



「家族に迷惑をかけたくない」など、家を望む人がふえています。その理由は、内閣府調査によると(右下図)「介護を受けたい場所」として、施設での介護を望む人がふえています。その理由は、

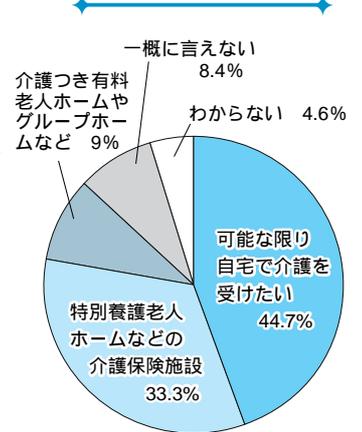
社会全体で高齢者を支える

社会環境の変化に伴い、家族だけで高齢者を介護していくことが、難しくなってきました。介護が必要になった高齢者を社会全体で支えるために、平成十二年四月から、介護保険制度が施行されました。介護保険認定者数は毎年ふえ、高齢者の約七人に一人が、介護認定を受けています。

サービスを受ける意識の変化

今まで、介護は家族が行うもので、他人の世話になるのをためらう文化がありました。女性の就労や核家族化が進み、家族で介護できる人がいなくなってきたという状況もありますが、介護保険制度が始まり、介護は家族だけで行うものという意識が、だんだん薄れてきたのではないのでしょうか。

介護を受けたい場所



平成15年7月「内閣府調査」より

しかし意識が変わってきたと言っても、まだ他人が家に入ることには抵抗があるようです。居宅サービスのうち訪問系・通所系サービスの利用状況を見ると、富士市の特徴がわかります。全国的には、それほど差がありませんが、富士市では、特に通所系サービスの利用傾向が強いようです。

居宅サービス内容の富士市と全国の比較

	訪問系サービス	通所系サービス	その他
全国	30.3%	34.7%	35.0%
富士市	23.5%	42.2%	34.3%

平成16年5月「事業状況報告」より

約二割が介護サービス未利用

認定者の約二割は、介護サービスを利用していません。平成十四年一月の高齢者実態調査によると、サービス未利用者の約三分の一が入院中のためサービスを利用していません。ほかには、介護認定は受けたが、まだサービスを利用するほどではないという人や、家族が介護してくれるので利用しない人がいました。

介護度が重くならないように



福祉保健部長
市川 聡

介護保険制度開始から今までの状況を見ると、介護度の軽い人が著しく増加しています。

元気な人が要介護にならないよう、また介護度を重くせず、自分でできる力をできるだけ維持するよう、介護予防を重視した体制が必要となってきます。

市では、介護保険サービスのほかに、元気なお年寄りを対象にした、脳いきいき教室や生きがいデイサービスなど、さまざまなサービスを行っています。生き生きとした生活が送れるよう、多くの皆さんに利用してほしいですね。

また、介護保険認定者の半数以上が痴ほうであることもわかっていきます。全国的にも同じ状況にあり、痴ほう性高齢者に合うサービスが求められています。

介護保険制度開始から五年目を迎えることは、介護保険見直しの年です。これから先、介護度が軽い高齢者、痴ほう性高齢者、一人暮らし高齢者の増加が予想され、それに応じた体制づくりが必要になります。現在の介護保険は、介護が必要になった人のための制度です。今後は、これから介護が必要となる人たちも視野に入れていきたいと考えています。

多くの皆さんが「介護は大変そう」と思っているのではないのでしょうか。実際はどのようなのでしょうか。では、実際に介護に携わる人たちの声をご紹介します。

グループホーム
入所者の家族

入所についてとても悩みました

ことし六月、夫の母がグループホーム（痴ほうの人たちが共同生活する施設）に入りました。十一年くらい前から母の痴ほうが始まり、子どもが成長すると反対に、後退していくのが目に見えてわかりました。得意だった編み物も、そのうち編み方さえもわからなくなりました。今では、家族のことも認識できません。

入所するまで、デイサービスを



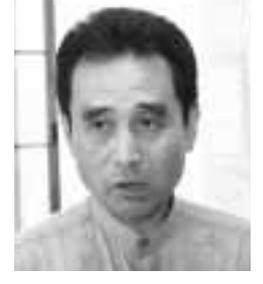
井出 恵子さん
(蓼原)

家族の手で介護してあげたい

介護サービス
未利用者の家族

私の父は、十年ほど前から手助けが必要になり、今は何をすることも介護が必要です。また、目が見えず、耳も聞こえないため、意志の疎通が難しく、昼間は、ほとんど居間のいすに座って過ごしています。

父は介護認定を受け、介護サービスを受けることもできますが、私が自営のため、家にいることもあり、全く利用していません。



杉山 昌敏さん
(宇東川東町)

利用しながら家で介護していましたが、母の痴ほうが進み、徘徊するようになり、介護に手のかかる一方、私の体調が悪く、介護が大変になってきました。そのうち母が家族とぶつかることも多くなり、このままだと家族がばらばらになりそうでした。ケアマネジャーに相談したところ、一週間ほどで施設入所が決まりました。最後まで家で介護していきたくて考えていたので、入所後もしばらくは、これでよかったのかとても悩みました。でも今では、母が施設で穏やかに生活している様子を見たり、私たち家族の状況を考えたりすると、入所してよかったと感じます。

でも、介護はやはり大変です。例えば夜、父はトイレに行くために何回か起きます。そのたびに手が必要になり、私も起きます。ここ数年、朝までぐっすり眠れることはありません。ほかに、ふるふると入浴するのがかかります。入浴するのは、今は一日置き、冬は三日に一度の割合になってしまいました。十日に一度くらい、市内に住む弟が、入浴の手伝いに来てくれて助かっています。

確かに介護は大変ですが、自分の親のことなので、面倒を見るのは当たり前だと思います。これからも、できるだけことはしていきたいですね。



自宅での介護



季節ごとの行事を楽しむデイサービスセンター



ケアマネジャーの家庭訪問

介護に対するよくない印象
ほとんどの皆さんが介護に対し、よい印象を持っていません。「介護してる」と言えば、「偉いわね」という言葉が返ってくるし、「介護してもらおう」と言う、「自分はもうだめになっちゃった」と思ってしまうようです。年をとれば、介護はだれにでも必要になります。介護に対する抵抗感や悪い印象を変えたいですね。

介護度が重くならないよう、予防のために家に手すりをつけたり、つえを使ったりすることを勧めています。しかし介護へのよくない印象から、「私はまだいいよ」と言う人が多いです。転ばぬ先のつえとよく言

クモの巣を張りめぐらすように
ケアマネジャーは、人と人の橋渡しをする仕事です。お年寄りを中心に、その家族や利用している介護サービスの事業所、主治医、地域の人などその人を取り巻く人たちと、クモの巣を張りめぐらすようにかわっていきます。自分たちでできる力を奪ってしまわないよう、どの程度援助したらいいのか、いつ手を差し伸べたらいいのかを見きわめる難しさを、常日ごろ感じています。

人と人の橋渡しをしています



ケアマネジャーとして働く
喜見 真間 さん
(中里)

デイサービスの利用を 楽しんでほしい

デイサービス センターに勤務



秋山 みゆきさん
(天間)

デイサービスセンターは、在宅のお年寄りを対象にした、日帰りで通う施設です。入浴や軽い運動、趣味活動など、朝から夕方まで施設で過ごします。私が働く施設では、毎日通う人もいますが、週三回利用する人が多いですね。利用者は子どもと同居している人が多く、特に家族が仕事のため、昼間一人になる人が多いようです。私は、平成四年から介護スタッフ

介護を難しく考えないでほしい

介護サービス 利用者の家族



あきら 昭さん
小牧 靖代さん
(伝法)

私たちの母は、月曜から土曜まで毎日デイサービスを利用し、月二回ショートステイ（短期の入所サービス）も利用しています。介護サービスを利用するようになったのは、約三年ほど前、母が支えなしで歩くことが大変になり、階段に手すりをつけたいと思ったことがきっかけでした。デイサービスを受けるようになり、最初は週一回の利用でしたが、母の希望

により、通う日数がふえました。利用する前は、一日ぼーっとしていただけでしたが、今は友達と話したり、何かつくったりと充実した毎日を送っています。もちろん、私たち夫婦にもゆとりと時間ができ、母だけではなく、私たちのためにもよかったです。と感じています。

また、デイサービスセンターでは、家では大変な入浴や、熱や脈をはかるなどの健康管理もしてくれます。その点でも安心ですね。介護は大変だと思われがちですが、特別なことは何もしていません。難しく考えずに介護していきたいですね。

フとして働き始めました。介護の仕事をしていると、「大変だね」と言われます。介護に限らず、仕事はどれも大変だと思っています。また、利用者の「面倒をかけてすまない」という言葉がづらいですね。私の方こそ、働かせていただいているがたいと思ひ、楽しく働いています。

利用者の皆さんは、デイサービスセンターで同じ世代の人と話しているのかかわることの楽しさを感じているようです。家にいると、自分では外出する手段がなく、家に閉じこもってしまうようです。本人が希望してデイサービスに来られる人が多いですね。



デイサービスセンターの送迎



入所した家族との面会

うように、介護が必要になってから手を打つのではなく、元気なうちから予防するよう心がけてほしいです。

地域で支えていく

本人や家族からの相談が多いですが、悠容クラブに來なくなった「最近見かけなくなった」などという情報を、地域の人からいただき家庭訪問することがあります。中には、だんだん外出が面倒になり、家に閉じこもってしまう人がいます。そうならないよう、地域で支えたいですね。

多くの人が抱えている不安

ふた親を見るケースも少なくありません。しゅうとめの相談に來ている人が、実家の両親の相談もしていきます。四十代・五十代の人たちが、親に何かあったらどうしようかと、漠然とした介護イメージに、不安を抱えています。わからないことや困っていることは、ぜひ私たちに話していただきたいと思います。介護サービスの提供だけでなく、精神的にも支援していけるよう取り組んでいます。

今後、介護を必要とする人はふえていきます。介護の実状は、家庭や社会環境など人によって違い、さまざまです。

市では介護現場の声を聞きながら、高齢者やその家族を支える体制をつくっていきたくて考えています。介護について感じている不安や感想など、ぜひ市役所や地域にある事業所にお聞かせください。

問い合わせ

介護保険について

介護保険課

☎五五二七六五

高齢者福祉サービスについて

生きがい福祉課

☎五五二七六〇

高齢者保健サービスについて

保健福祉センター

☎六四一八九〇